

録音図書

耳で聞いて読書できるように朗読し、その音声を収録したものが録音図書です。音楽CD形式とデイジー（DAISY）形式があります。デイジー（DAISY）とは、Digital Accessible Information System の略で、視覚障害などで活字の読みが困難な方のために製作されるデジタル図書の国際標準規格です。



← デイジー図書を聴くときに使う専用機器です。再生速度を変えたり、音量やトーンを調節することができます。デイジー図書の作成や編集にも活用できます。

勇気をもってひと声かけてください



白杖を持ち、何か迷っている方を見かけた時は「お手伝いすることはありますか」と声をかけてください。希望を聞いてから行うのが一番良い手助けになります。「結構です」と言葉が返ってきたら、助けは不要というご本人の気持ちを尊重しましょう。

このしおりは千葉県立千葉盲学校並びに先生方のご協力を得て、四街道市立図書館が編集しました。平成28年11月14日



ご存知ですか

千葉県立千葉盲学校

～幼児から成人までの学びの場～



四街道市大日 468-1 TEL043-422-0231

<http://cms1.chiba-c.ed.jp/chiba-sb/>

◆千葉県立千葉盲学校のご紹介

四街道市大日にある千葉県立千葉盲学校は、県内で唯一の視覚に障害がある方のための学校です。

視覚障害を克服し、自立と社会参加をめざし可能性を広げるために基本的能力の育成を図るという教育目標のもと、幼稚部（3歳）から専攻科まで、100名余の幼児・児童・生徒のみなさんが学んでいます。

前身は明治41年2月創設の「鍼灸講習所」で、創立から一世紀を超えた長い歴史を持つ学校です。

昭和44年に千葉市小仲台から現在の四街道市大日の校舎に移転し、幼稚部や高等部保健医療科の設置など、教育体制、施設の充実を図っています。

遠方で通学が困難な方のため、寄宿舎があります。集団生活を通して、自立する力と、思いやりの気持ちで接する心をはぐくんでいます。

〈千葉盲学校の図書館風景〉

～明るく、温もりある空間～

多くのボランティアの協力で
豊かな読書の世界が
広がっています。



点字図書

点字とは、タテ3点、ヨコ2列の6つの凸点の組み合わせによって構成されています。点字は指先を使って読みます。

児童書では、左頁が墨字で、右頁が点字になっているものも



あり、点字を読む練習をしたり、家族と一緒に物語を楽しんだりすることも出来ます。

墨字本と比べ、大変分量が多くなります。

↑ 「野川」長野まゆみ著は、点訳では全3巻になります。

拡大図書

弱視の方が使いやすいよう、文字や挿絵を拡大したもので、



カラーコピー、スキャナを用いて実物と同じように製本します。

弱視の幼児・児童・生徒が利用しやすくなっています。

さわる絵本

様々な素材を用いた触って楽しむ絵本で、童話・かたち・



ボタンかけなど様々なものがあり、手作りの温かさが伝わってきます。

← 右頁はさわる絵本、左頁には墨字と点字が付されています。

◆千葉盲学校を支えるボランティアのちから



千葉盲学校の図書館には、長田弘の詩

「世界は一冊の本」が大きく掲げられています。

墨字本（点字に対して一般的に用いられている文字をまとめて墨字と呼びます）のほか、ボランティアの皆さんによって作成された点字図書、拡大図書、朗読テープ、録音図書、さわる絵本、点図などが揃い、幼児、児童、生徒たちの訪れを待っています。

千葉盲学校での図書ボランティアの始まりは、昭和30年代、小仲台校舎に隣接の千葉女子高等学校生による教科書や参考書の朗読サービス「声の図書」だったということです。

現在、県内様々な地域のボランティアグループ40団体、約650名の方が千葉盲学校図書館からの依頼を受け、点訳、音訳、拡大写本、さわる絵本などの様々な資料を作成、提供し、学校になくてはならない存在として、日々の学習活動、読書活動を支えています。毎日使う教科書をはじめ、理療科、専攻科で学ぶ生徒のために、医学専門書、問題集の対面朗読も欠かせません。そして、学校とボランティアが緊密な連携のもと、組織化した活動を行っていることにより、継続的な力が発揮されています。

幼稚部、小学部 中学部 高等部普通科 高等部総合生活科	幼稚園、小・中・高等学校に準ずる内容の活動・学習をしています。一人一人の課題や見え方に応じた学習・きめ細やかな指導を行います。
高等部保健理療科	高等学校の普通教育とあん摩マッサージ指圧師になるための専門教育を併せて行います。（国家試験受験資格取得）
専攻科 保健理療科、理療科	あん摩マッサージ指圧師、鍼師、きゅう師になるための専門教育を行います。*鍼師、きゅう師は専攻科理療科のみです。（国家試験受験資格取得）

◆学校生活

生徒会、クラブ活動、校外学習や文化祭など、授業以外にも多彩な活動・行事があります。2学期制で、中学生からは年4回の定期試験があり、小・中学校及び高等学校と同じような学校生活を送っています。



◆寄宿舎での生活

千葉盲学校の寄宿舎は、学校から400m程度離れたところにあり、毎日歩行訓練を兼ねて登下校をしています。毎朝6:40に起床し、規則正しい生活習慣を身につけ、自分の身の回りのことを自分で行えるように掃除や洗濯などに取り組んでいます。また、小学部～理療科まで他学部・異年齢の様々な児童生徒と集団生活を共にする中で、コミュニケーション能力や社会性を培っています。

◆視覚障害とは

視覚障害とは、何らかの原因で見えにくくなったり、見えなくなったりすることで、将来にわたって日常生活、または社会生活に相当な制限を受ける状態のことを言います。

日本は世界一の長寿国であり、生活習慣病など、深刻な医療問題が増加しています。特に糖尿病患者の増加は激しく、成人の約20%が糖尿病予備軍とされています。糖尿病網膜症、緑内障、加齢黄斑変性症などの疾病により、視力を失う方も少なくありません。

突然視力を失うということは、大きな困難ですが、生活訓練、職業訓練を経て自立している方が大勢います。

今後は、人生の半ばを過ぎてから視覚障害を得る人が増加する事が予想されます。私たちの身近な問題として、視覚障害に対する理解を深めていくことが求められています。



○視力の障害

眼の機能には視力、視野、光覚などがあります。視力に障害があると、明暗・色の識別・物の形の把握などに困難が生じます。視覚障害の見え方を表す言葉には、全盲、弱視（ロービジョン）などの表現があります。拡大補助具（ルーペや拡大読書器など）を活用して活字が読める場合は弱視とされています。

弱視の方は、保っている視力を生かしながら生活しています。見えにくくする要因を一つ、あるいは複数抱えています。それゆえ、ひとりひとりの見え方は様々な状態になっています。

○視野の障害

視野が狭くなっている場合を視野狭窄といい、特に周辺部の視野が見えず、中心のみ見える状態を中心性視野狭窄と言います。

また、視野の中に見えない部分が生じた場合、その部分を暗点といい、特に中心部が見えなくなる状態を中心暗点と言います。



【視野狭窄の見え方の例】

○光覚の障害

暗さに眼が適応していくことを「暗順応」、反対に明るさに眼が適応していくことを「明順応」と言います。

まぶしさが苦手な場合、照明の調節を行うことや印刷物の**白黒反転**、屋外での活動においては、帽子や遮光眼鏡を使っています。

【参考文献】

青柳まゆみ・鳥山由子著 視覚障害教育入門 2012 ジアース教育新社